

エコアクション21

環境活動レポート

(運用期間：2017年 4月 1日 ～ 2018年 3月31日)



株式
会社

加藤建設工業

エコアクション21 環境レポート

1. 組織の概要	P 2
2. 事業規模	P 3
3. 産業廃棄物フロー	P 4
4. 認証・登録範囲	P 5
5. 環境方針	P 6
6. 環境目標	P 7
7. 環境目標の実績	P 8
8. 環境活動計画の取組結果－1	P 9
環境活動計画の取組結果－2	P 10
9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P 11
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	P 11
11. 地域貢献活動の取組	P 12

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 加藤建設工業

代表取締役 高野修

(2) 所在地

- ・ 本 社 埼玉県飯能市大字飯能399-1
- ・ 東京支店 東京都青梅市東青梅2丁目16-5 賀根井ビル201号
- ・ 日高支店 埼玉県日高市上鹿山796-1
- ・ 武蔵プラント 埼玉県日高市上鹿山795-3

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・ 責任者 工務部 部長 天沼 紀昌 TEL：042-974-1700
- ・ 担当者 営業部 課長 宮寺 佑典 FAX：042-974-3464

(4) 事業内容

- ・ 建設業【国土交通大臣（般・特）第24194号】
許可業種：【特定】土木一式、舗装、とび土工、水道、解体
【一般】管工事、建築工事業、大工工事業、タイル・れんが・ブロック工事業
鋼構造物工事業、鉄筋工事業
- ・ 産業廃棄物収集運搬業
事業の範囲： 積み替え保管を除く：汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。）
がれき類
- ・ 産業廃棄物処分業（中間処分業）
事業の範囲： 脱水：汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。）
- ・ 建設発生土のリサイクル
- ・ 改良土の製造販売
粒状改良土、第2種改良土（石灰改良土）

(5) 事業年度 4月～3月

2. 事業の規模

法人設立 1968年1月3日
 資本金 35 百万円
 売上高 建設業 2,255 百万円 武蔵プラント 543 百万円 (2017年度)

受託した産業廃棄物の処理量

収集運搬量	4598 t		
中間処理量	29,443 t	うち再資源化量	29,443 t
最終処分量	t		
中間処理後の産廃の処分量	29,443 t	うち再資源化量	29,443 t

重機・車両台数

車 種	台 数
10t ダンプ	7 台
8t ダンプ	2 台
4t ダンプ	1 台
2t ダンプ	1 台
0.7m ³ バックホウ	5 台
0.45m ³ バックホウ	1 台
0.2m ³ バックホウ	1 台
ペーローダ	1 台
ブルドーザー	1 台

許可・登録の内容

種類	発行者	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	産業廃棄物の種類				
					汚泥	がれき類			
産業廃棄物収集運搬業	埼玉県	第01102016592号	平成29年07月07日	平成34年06月18日	●	●			
産業廃棄物収集運搬業	東京都	第13-00-016592号	平成26年04月01日	平成31年03月31日	●	●			
産業廃棄物収集運搬業	群馬県	第01000016592号	平成27年09月29日	平成32年09月28日	●	●			
産業廃棄物中間処理業	埼玉県	第01120016592号	平成25年09月17日	平成30年09月16日	●				

処理施設の種類及び能力等（許可番号 2-44）

施設の種類	処理能力 (稼働時間)	産業廃棄物の種類	設置年月日 許可年月日
脱水施設	215m ³ /日 (8時間)	汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。） 以上1種類	平成15年9月17日
			平成15年9月18日

保管施設の種類及び能力等

産業廃棄物の種類	保管の面積	保管の高さ等
汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。）以上1種類	100.0m ²	2.0m（屋内）
汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。）以上1種類	100.0m ²	2.0m（屋内）
汚泥（含水率80%以下で無機性のものに限る。）以上1種類	300.0m ²	2.0m（屋外）

3. 廃棄物処理フロー

産業廃棄物収集運搬フロー

工事現場



最終処分(社外)

建設発生土リサイクルフロー

工事現場



顧客工事現場

- 原料土をホッパーへ投入
- パドルミキサーにて攪拌
(ソイルハード添加)
- ローリングミキサーにて攪拌
(生石灰添加)
- トロンメル式篩いにより篩い分け

- 粒状改良土
- 第1種改良土
- 第2種改良土

汚泥リサイクルフロー

工事現場・浄水場他



自社民間工事

- 原料土をホッパーへ投入
- パドルミキサーにて攪拌
(ソイルハード添加)
- ローリングミキサーにて攪拌
(生石灰添加)
- トロンメル式篩いにより篩い分け

- 粒状改良土

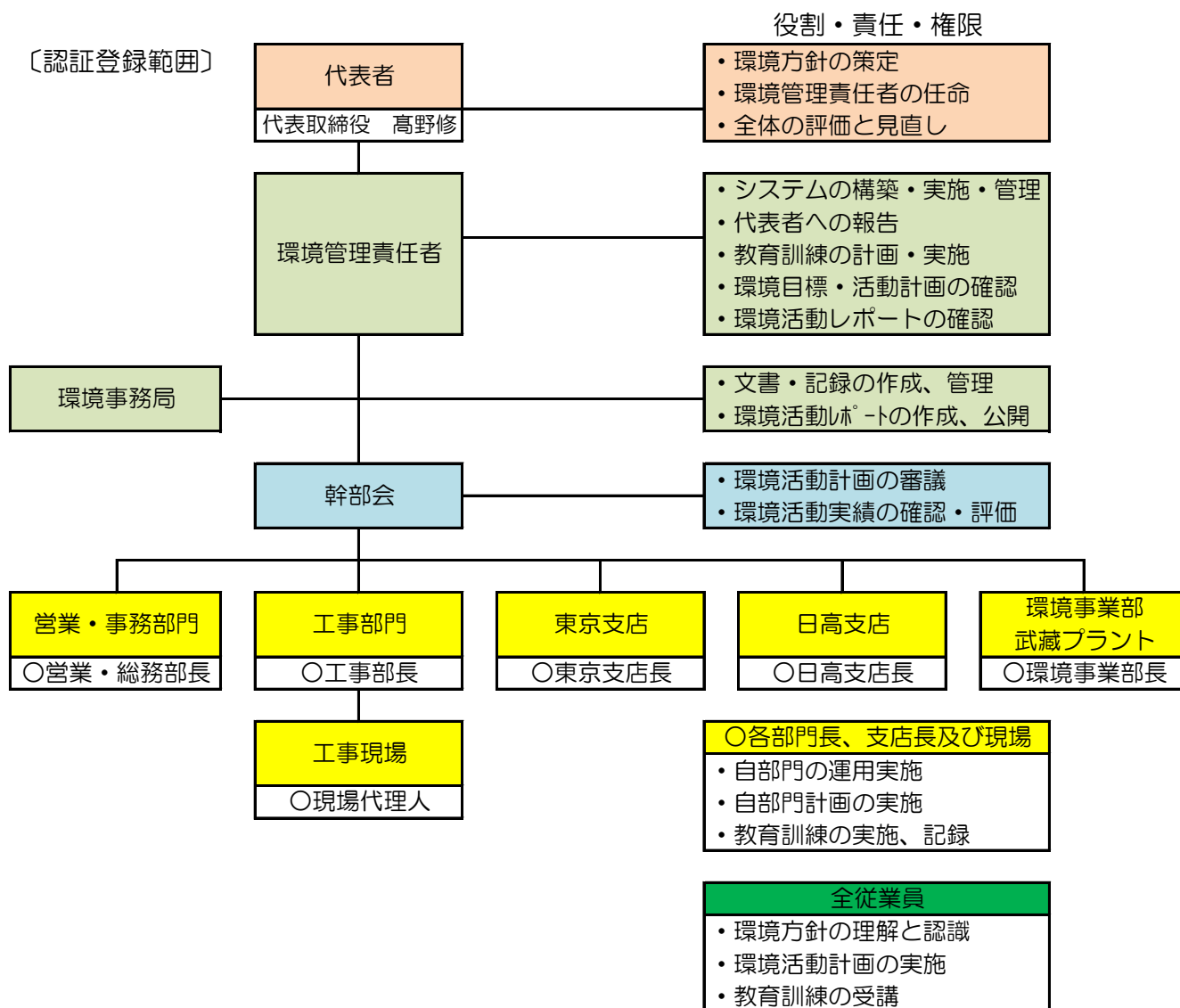
4. 認証・登録範囲

登録組織名： 株式会社加藤建設工業

対象事業所： ・本 社
・東京支店
・日高支店
・武蔵プラント

活 動： 建設業、産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処分業）
建設発生土のリサイクル、改良土の製造販売

【環境管理実施体制図】



5. 環境方針

《基本理念》

株式会社加藤建設工業は、かけがえのない地球環境を未来に残すために環境保全を経営の最重要課題の一つとして捉え、より良い環境の創造に向けた取り組みを行ってまいります。

《環境行動指針》

1.コンプライアンス

当社は、建設工事、廃棄物処理事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境関連の法規及び条例等の規則を遵守致します。

2.環境負荷の低減

環境目標・環境活動計画を定め継続的な改善を行う事で環境負荷の低減に取り組みます。

1. 二酸化炭素排出量の削減
2. 廃棄物の排出抑制
3. 水使用量の削減
4. グリーン購入の推進
5. 地域貢献活動の推進
6. 改良土の品質維持

制定日 平成 21年 1月 5日

改定日 平成 26年 12月 11日

株式会社加藤建設工業

代表取締役 高野 修

6. 環境目標

基準年度：（2017年 4月 1日 ～ 2018年 3月31日）

項目		単位	部門	2013年度	2017年度		2018年度		2019年度	
				基準年度	削減率	目標	削減率	目標	削減率	目標
二酸化炭素排出量の削減				1,284,969	▲ 5%	1,220,720	▲ 5.5%	1,214,295	▲ 6.0%	1,207,871
	電力による二酸化炭素削減									
	電力	kWh	本社・支店	52,602	▲ 5%	49,972	▲ 5.5%	49,709	▲ 6.0%	49,446
			建設現場	13,930	▲ 5%	13,234	▲ 5.5%	13,164	▲ 6.0%	13,094
			プラント	113,313	▲ 5%	107,647	▲ 5.5%	107,081	▲ 6.0%	106,514
	重機燃料による二酸化炭素削減									
	ガソリン	ℓ	建設現場	2,399	▲ 5%	2,279	▲ 5.5%	2,268	▲ 6.0%	2,256
	軽油	ℓ	建設現場	136,270	▲ 5%	129,457	▲ 5.5%	128,775	▲ 6.0%	128,093
			プラント	113,375	▲ 5%	107,706	▲ 5.5%	107,139	▲ 6.0%	106,573
	自動車燃料による二酸化炭素削減									
	軽油	ℓ	10 t DT	138,090	▲ 5%	131,186	▲ 5.5%	130,495	▲ 6.0%	129,805
	ガソリン	ℓ	営業活動	19,769	▲ 5%	18,780	▲ 5.5%	18,682	▲ 6.0%	18,583
			建設通勤	37,971	▲ 5%	36,073	▲ 5.5%	35,883	▲ 6.0%	35,693
			プラント	8,033	▲ 5%	7,631	▲ 5.5%	7,591	▲ 6.0%	7,551
	一般廃棄物の削減									
			t	全社	2,220	▲ 5%	2,109	▲ 5.5%	2,098	▲ 6.0%
産業廃棄物の削減										
	リサイクル率	%	建設現場	100		100		100		100
水道水の削減										
	水量	m³	本社・支店	1,347	▲ 5%	1,280	▲ 5.5%	1,273	▲ 6.0%	1,266
			プラント・現場	357	▲ 5%	339	▲ 5.5%	337	▲ 6.0%	336
グリーン購入の推進										
	金額ベース	%	全社			50		55		55
改良土の品質維持										
		回	プラント	12		12		12		12
地域貢献活動の推進										
		回	全社			4		4		4

※購入電力のCO₂排出量は平成24年度東京電力㈱ 0.525kg-CO₂/kWhを使用

7. 環境目標の実績

運用期間：（2017年 4月 1日 ～ 2018年 3月31日）

項目		単位	部門	2013年度	2017年度				
				基準年度	削減率	目標	実績	判定	
二酸化炭素排出量の削減				1,284,969	▲ 5%	1,220,720	1,279,905	×	
	電力による二酸化炭素削減								
	電力	kWh	本社・支店	52,602	▲ 5%	49,972	38,509	○	
			建設現場	13,930	▲ 5%	13,234	10,343	○	
			プラント	113,313	▲ 5%	107,647	98,154	○	
	重機燃料による二酸化炭素削減								
	ガソリン	ℓ	建設現場	2,399	▲ 5%	2,279	667	○	
	軽油	ℓ	建設現場	136,270	▲ 5%	129,457	138,769	×	
			プラント	113,375	▲ 5%	107,706	131,930	×	
	自動車燃料による二酸化炭素削減								
	軽油	ℓ	10 t DT	138,090	▲ 5%	131,186	143,725	×	
	ガソリン	ℓ	営業活動	19,769	▲ 5%	18,780	9,087	○	
			建設通勤	37,971	▲ 5%	36,073	28,034	○	
			プラント	8,033	▲ 5%	7,631	8,372	×	
	一般廃棄物の削減								
			t	全社	2,220	▲ 5%	2,109	1,914	○
産業廃棄物の削減									
	リサイクル率	%	建設現場	100		100	100	○	
水道水の削減									
	水量	m³	本社・支店	1,347	▲ 5%	1,280	1,011	○	
			プラント・現場	357	▲ 5%	339	312	○	
グリーン購入の推進									
	金額ベース	%	全社			55	58	○	
改良土の品質維持									
		回	プラント	12		12	17	○	
地域貢献活動の推進									
		回	全社			4	8	○	

※購入電力のCO₂排出量は平成24年度東京電力㈱ 0.525kg-CO₂/kWhを使用

8. 環境活動計画の取組結果 1

結果： ○良好 △一部出来ていない ×不良

取組項目	結果	評価・課題
電力による二酸化炭素削減		
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	○	本社のLED化終了。2013年度時に比べ電気使用量が26%減と高い効果を表れている。来季以降は、天井と床の温度差を平準化するエコシルフィの導入を検討中。 環境事業部においては、粒状改良土の出荷状況に左右されるため、原単位での管理により幅を持たせる必要がある。
・不要照明の消灯	○	
・不在時にPCモニタースイッチオフ	○	
・不要な空調機器の停止	○	
・トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	○	
・昼休み時はPCの電源を切る	×	
・空調フィルターの清掃	○	
・クールビズ、ウォームビズの徹底	○	
・生産工程の待機時間短縮（プラント）	○	
重機燃料による二酸化炭素削減		
・ハイブリット重機の優先使用	○	環境事業部は、残土搬出変更に伴い回転率が上がり、利益面では貢献したがその分重機の稼働率が上がり、燃料使用量は増加した。コベルコを3月に導入したので、改善が見込まれる。原単位については売上により幅を持たせる予定。 工事は、平成30年度10月迄ムーミンテーマパーク造成工事が予定されているため、目標の達成は出来ないが省エネ運転を徹底し無駄を無くすよう努める
・低燃費重機の優先使用	○	
・無駄のない施工の見直し	○	
・アイドリングストップ	○	
・急発進、急加速、空ぶかしの禁止	○	
・排ガス対策機械の優先使用	○	
・低騒音型建設機械の優先使用	○	
・低振動型建設機械の優先使用	○	
・高速走行の禁止	○	
・車内冷暖房機器の適正使用	○	
・適材適所の人員配置	○	
・燃料の流失防止	△	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
・アイドリングストップ	○	環境活動も3年が経過し省エネ運転も浸透している。今後の飛躍的な改善は見込めないため、成長を見込み管理方法を原単位の方法に変更する予定。ある程度の幅を持たせる（EA21監査より）
・効率的なルートでの運行	○	
・法定速度遵守	○	
・公共交通の利用促進（営業活動）	○	
・急発進、急加速の禁止	○	
・車両整備による燃費向上	○	
・車内冷暖房機器の適正使用	△	
・現場への相乗り	○	
・エコドライブの教育	○	
・燃費掲示により意識の向上（ダンプ）	○	
・過積載防止（ダンプ）	○	
・路上に泥を引っ張らない（ダンプ）	○	

8. 環境活動計画の取組結果2

結果： ○良好 △一部出来ていない ×不良

取組項目	結果	評価・課題
一般廃棄物の削減		
・裏紙利用の徹底	○	引き続き、分別、ラベルはがし、つぶしを呼び掛ける。若手社員も増えて来たので継続した呼びかけを実施し、会社のルールを意識に受け付けていく。
・書面の見直しによる印刷ミスの徹底	○	
・ペーパーレス化の推進	○	
・排出物の分別	○	
・プロジェクターを使用した会議の推進	○	
産業廃棄物の削減		
・マニフェストによる適正管理・処理	○	100%を目指して継続する。
・分別を徹底しリサイクル率を上げる	○	
・他現場で使用できる資材は流用する	○	
水道水の削減		
・節水の掲示	○	節水に対する意識が定着しており、良好。
・節水弁取り付け	○	
・自動水栓取り付け	○	
・洗車の効率化	○	
・漏水のチェック	○	
グリーン購入の推進		
・事務用品グリーン購入比率向上	○	グリーン商品対応でない商品があるため、限界に近いと思われる。来季は55%を目標とする。女性事務員にグリーン商品購入の継続を教育
・省エネ性能の高い電気製品の購入	-	
・使い捨て製品の購入を抑制する。	○	
改良土の品質維持		
・改良土の品質維持	○	年間通じて品質での苦情は無く良好。逆に製品が良い過ぎると褒められるほど。引き続き安全安心な製品に心掛ける
・受入残土の分析	○	
地域貢献活動の推進		
・本郷～能仁寺間美化運動	○	地域貢献としては、雪が降ったこともあり感謝される事が多かった。美化運動も積極的に参加し良好。
・中山陸橋道路サポート	○	
・除雪業務	○	

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況をチェックの結果、違反はありませんでした。また、地域からの苦情もありませんでした。関係当局よりの違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去5年間発生してありません。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

当社の機会とリスクは若手であり、将来の期待はあるが、経験不足から来る認識の甘さは拭えない。環境活動を通じて、仕事の無理、ムラ、無駄が少なくなり、生産性の向上に繋がることを期待する。当社の今までの傾向は、計画と実行はするが評価と改善が後回しになり、PDCAが回っていないと感じる。後追いをしっかりやり若手からも改善案が出るよう働きかける事。

ここ数年、ウィルスによるPCの被害が数件ありました。ウィルス被害を受けると業務に重大な支障が起きる。ソフトウェアの更新、ハードウェアの入替を行い円滑な業務に留意する事。社員が増える事で環境への負荷は大きくなり、目標設定の変更など、大小様々な問題が出てくると思うが、臨機応変に対応をし、更なる飛躍を目指してほしい。

株式会社加藤建設工業
代表取締役 高野修

1 1. 地域貢献活動の取組

中山陸橋道路サポート



会社周辺道路美化運動



除雪業務

